

|        |  |           |                    |       |               |
|--------|--|-----------|--------------------|-------|---------------|
| 学校教育目標 | 『笑顔とやさしさをつなげていく北方の子』<br>(知)知識・技能を身に付け、共に学び合う中で培った力を、様々な場面で生かす子どもを育てます。<br>(徳)自他の良さを知り、共に大切にしたい心やりの心を育てます。<br>(体)心身ともに健康で、進んで運動に取り組む、たくましい子どもを育てます。<br>(公)自分たちの地域を愛し、社会の一員として共にかかわる子どもを育てます。<br>(関)自分の役割を自覚し、自ら取り組む、自立した子どもを育てます。 |           |                    |       |               |
|        | 創立 151 周年  | 学校長 今野 裕子 | 副校長 重泉 正昭          | 2 学期制 | 一般学級: 個別支援学級: |
| 学校概要   | 児童生徒数: 614 人   |           | 主な関係校: 港中学校 仲尾台中学校 |       |               |

|                        |                        |   |
|------------------------|------------------------|---|
| 教育課程全体で育成を目指す資質・能力     | 〇〇中ブロック                | 小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組   |
| 情報活用能力<br>主体的に学ぼうとする能力 | 港中学校<br>元街小学校<br>北方小学校 | 〇生涯にわたって主体的創造的に生きる力を育もうとする子ども<br>〇この地を愛し、この地から愛され、この地を創る子ども<br>・「多様な情報を活用し、主体的に考え、他者と協働しながら、自らの課題を解決しようとする子どもの育成」を目指して、校内で研究を進めていく。<br>・港中学校ブロックだけでなく、仲尾台中学校とも情報交換や交流活動等をすすめる、2中学校区の北方小の現状を踏まえて、地域に生きる子どもを育成する。 |

|        |   |
|--------|---|
| 中期取組目標 | <p>〇誰もが安心して学ぶことができ、一人ひとりが個性を生かしながらお互いを認め合う、生き生きとした学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員との信頼関係をベースにして規範意識を醸成しながら、いじめのない学級学校を作ります。</li> <li>・体験的な学習を大切にして、個に応じた適切な指導と必要な支援に心がけ、「わかる」「できる」「おもしろい」授業作りの推進により、学力を向上させます。また、情報モラルを高めながら、ICTを活用して教育を推進します。</li> <li>・異学年との交流や役割を果たす活動の中で自己有用感を育み、楽しく学校生活を送れるようにします。</li> <li>・地域とのつながりを意識した豊かななかかわりの中で、地域を愛する心と社会の為に自ら行動しようとする力を育てます。</li> </ul> |
|--------|---|

| 重点取組分野         |             | 具体的取組  |
|----------------|-------------|--|
| 知              | 授業改善        | ①協同的な学びと個別最適な学びを効果的に位置づけ、子どもが主体的に学ぶ北方の子の育成を図る。②ICTの活用場面について、実践を通して発達段階に応じた活用ができるようにする。③国語科に重点をおいて、身に付けさせたい資質・能力を明確にして、主体的・対話的な学びの実現を図る。                |
| 担当             | 研究推進委員会     |  |
| 徳              | 人権教育        | ①一人ひとりを褒めて認めることで、自信と意欲につなげ、子ども同士で褒め合い認め合う活動を工夫して充実させ、自己有用感を育む。特に、多文化共生の視点から国際教室に通うことで安心できる環境づくりを図る。<br>②教職員の人権意識を再確認・向上させるために、校内および港中学校ブロック内での研修に取り組む。 |
| 担当             | 人権・道徳・特活    |  |
| 体              | 健康教育        | ①北方ストレッチに継続して取り組み、体力向上を図る。②委員会活動、検診、保健や給食に関わる各指導を進め、けがの予防を図り、健やかな体づくりへの意識を高める。<br>③プライベートゾーンの指導について、健康教育カリキュラムに明確に位置づけ、横断的に指導できるようにする。                 |
| 担当             | 体育部・給食食育部   |  |
| 公開             | 公共心と社会参画    | ①各種当番活動や黙働、委員会などを通して、学級や学校の為に仲間と力を合わせて取り組み、責任を果たしていく意識を、児童が実感できるようにする。②社会とのつながりを意識しながら、学校での教育活動をSDGsの理念で再価値付けして折に触れて示し、SDGs理念の意識を高めていく。                |
| 担当             | 教務・特活・生活総合  |  |
| いじめへの対応        |             | ①校内研修等を実施し、いじめを積極的に認知し、子どもの心情に寄り添うことを徹底し、いじめ防止対策委員会の内容の充実を図る。<br>②全教職員でいじめに対するアンテナを高くするとともに、丁寧に対応し、児童が安心・安全に過ごすことができるよう学校対応力を向上させる。                    |
| 担当             | 児童指導委員会     |  |
| 人材育成・組織運営(働き方) |             | ①教職員一人ひとりが役割を担って責任を果たす場を設定し、学校運営に関わる意識の工場を図る。②メンター研の計画的運営により、一層の充実を図り、学校全体で経験の浅い教員を多面的に支えていく。③会議・研修の工夫と、教職員の裁量のある時間を生み出せるようにする。                        |
| 担当             | 教務          |  |
| 特別支援教育         |             | ①特別支援教室の環境整備と運営を充実させる。<br>②校内研修等により、特別な教育的配慮を必要とする対応について学び、指導と支援の質の向上を図る。<br>③関係機関との連携協働により、学校の対応力の一層の向上を図る。   |
| 担当             | 特別支援教育校内委員会 |  |
| 児童指導           |             | ①教職員との信頼関係を土台にしながら、生活・学習の規律や約束を指導確認し、規範意識を高める。<br>②学校カウンセラー、SSWや関係機関と連携し、家庭の状況を踏まえつつ、児童に寄り添い、個に応じて指導支援する。  |
| 担当             | 児童指導委員会     |  |
| 地域学校協働活動       |             | ①学校運営協議会の安定的運営と充実を目指す。<br>②学校地域コーディネーターの活動を開始し、必要な部分やできることを模索し、教育活動の幅を広げる。<br>③幼保小連携下での就学前教育を、中学校までの9年間で育てたい資質能力につなげることを意識する。                          |
| 担当             | 教務          |  |
|                |             | b10  |
| 担当             |             |  |